

「ピオーネ」における着色向上対策の現地試験調査（西讃地区）

【園芸部門（果樹経営担当）】

高畑 宏基

1 課題を取り上げた理由

近年、地球温暖化による高温の影響により、ブドウ「ピオーネ」では着色不良が問題となっている。アブサップ液剤（アブシジン酸液剤）については、安定的な着色向上効果が認められる一方、場合によっては果面の汚れや花粉溶脱が見られることが問題となっている。そこで、当産地におけるアブサップ液剤処理の適応性を検証する。

2 当該年度の調査研究計画

- 1) 設置場所 三豊市豊中町
- 2) 設置農家名 O氏
- 3) 調査期間 2023年7月～2023年9月
- 4) 耕種概要 「ピオーネ」（10年生）1樹 トンネル栽培 環状剥皮処理
GA処理日 2023年5月21日（一回処理）

5) 区の構成

園地内で中庸な樹勢の1樹において、中庸な果房を30房選定し、処理区について、着色始期にハンドスプレーを用いて適量を散布した（処理日：2023年7月14日）。なお、着房数は結果母枝1m当たり6～7房に調整した。収穫期を早期（処理区の着色状況に合わせて収穫）、適期（無処理の着色状況に合わせて収穫）に分割した。

表1 区の設定と処理方法

試験区		処理濃度	試験規模	1房当たり 散布量	備考
収穫期	ABA 処理有無				
早期 (8月9日)	処理	100倍	5房	3.3ml	
	無処理	—	5房	—	
適期 (8月22日)	処理	100倍	10房	3.3ml	
	無処理	—	6房	—	
	多散布処理※	100倍	4房	10ml以上	

※生産者と相談し、大きい房に対して液量を多く処理する多散布処理区を設置した。

6) 調査項目

果房重、果皮色、果粒重、糖度、酸含量、果粉の溶脱、果粉の汚染程度、食味など

3 結果及び考察

- 1) いずれの収穫期においても、ABA 処理によって果皮色が向上した。収穫期で比較すると、早期収穫区における着色向上効果が高かった。果房重が大きい多散布区では、果皮色向上効果は低かった。
- 2) 糖度および酸含量に ABA 処理による差はなかった。しかし、収穫期で比較すると早期収穫区は収穫適期に比べて酸がやや高く、食味ではやや酸っぱく感じた。
- 3) 処理による果粉溶脱は見られなかったが、軽度の果粒の汚れが発生した。
- 4) 以上のことから、「ピオーネ」において、ABA 処理により着色が促進されることが明らかになった。ただし、果房重が大きい場合には、散布量を多くしても着色向上効果は低いことが確認された。処理によって果粒に軽微な汚れがみられたものの、商品性には影響を及ぼさなかった。

4 農業者等への波及

着色向上手段の1つとして、講習会などを通して生産者に情報提供を行う。

5 具体的データ

表2 果実調査結果

試験区		果房 重 (g)	着粒 数	果皮色 (C.C.) ^z	果粒 重 (g)	糖度計 示度	酒石酸含量 (g/100ml)	果粉 の 溶脱 ^y	果粉の 汚染 程度 ^y
収穫期	ABA 処理 有無								
早期	処理	571.2	38.2	8.1	14.5	18.1	0.61	1.0	0.0
	無処理	545.8	39.8	7.1	13.2	18.2	0.62	1.0	0.0
適期	処理	605.4	37.6	8.2	15.7	18.0	0.51	1.0	0.0
	無処理	572.8	40.2	7.9	13.9	18.2	0.50	1.0	0.0
	多散布	748.9	40.5	7.8	17.8	17.8	0.44	1.0	0.0

z: ブドウ 赤・黒・紫色系農林省果樹試験場 1975 による

y: 0～3 までの 4 段階(0:発生なし、1:商品性に問題のない軽度、2:等級を落とさざるを得ない中度、3:商品性がなくなる重度)で判定。



写真1 早期収穫



写真2 適期収穫



写真3 果粉の溶脱

6 残された問題点 着色向上による過度の早期収穫。